

第3回 IT を活用した教育センターワークショップを開催して

昭和大学歯学部長 宮崎 隆

平成 24 年度に「IT を活用した超高齢社会の到来に対応できる歯科医師の養成プログラム」が文部科学省の大学間連携共同事業として採択され、連携校である北海道医療大学ならびに岩手医科大学と力をあわせて、さらに各歯科医師会との連携のもとに着実に事業を進めています。すでに、これまで共同で開発してきた新しい教育プログラムを、各大学の3年生に対するカリキュラムに取り入れました。

このたび、11月21日(木)に昭和大学旗の台校舎において、連携3大学ならびに各歯科医師会から約50名の参加のもとに、第3回目のワークショップを開催しました。今回は3年生に対して実施した教育の成果と改善点の検討、ならびに次年度の4年生に対する教育プログラムの検討を行いました。前回同様に、事前に準備した資料に基づき、各グループで熱心な討論が行われ、具体的なプロダクトを作成しました。前回以上に地域医療の現場で活躍している歯科医師会の先生がたからも具体的な提案を多数頂戴し、大いに参考になりました。

今回のワークショップには、本大学が交流している米国南カリフォルニア大学のクラーク教授とマリガン教授が参加してくださいました。クラーク先生は **Oral medicine**(顎関節症、顎顔面痛)が専門で、世界で始めて歯科用仮想患者システムの開発を行い、世界中の受講者とネットワークを利用した教育を行っています。時間の関係でクラーク先生の講演は、ワークショップの前日に行われましたが、仮想患者システムの開発コンセプトと今後の展望に関する講演をしてくださり、本プロジェクトにおける教材開発に大きな指針を与えてくれました。

マリガン教授は高齢者歯科並びに障害者歯科がご専門で、高齢患者に高頻度にみられる口腔乾燥症と舌痛症の診断と治療アプローチについて、学生が能動的に学習する方法を含めて具体的な事例を紹介して講演してくださいました。本プロジェクトではITを活用した教材の開発を進めていますが、この教材は学生が主体的に、そして能動的に学習するためのツールであるという根本的なことを改めて強く実感いたしました。私たちは自信を持って、本プロジェクトを進めていきたいと思えます。

最後になりましたが、参加いただいた各大学ならびに歯科医師会の先生がた、ワークショップの運営にご尽力いただいた教育センター、協力IT企業、ならびに各大学の事務関係者に御礼申し上げます。